

単元観

日本は、地理的条件や気候などから、自然災害の多い地域である。地震やそれに伴う津波や火災、また近年では、局地的な豪雨やそれに伴う河川の増水、土砂崩れも多く発生するなど、私たちを取り巻く自然環境は大きく変化している。

本単元では、自然災害による傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、危険の予測やその回避の方法を考え、表現することをねらいとしている。学習内容としては、自然災害によって、生命や生活が脅かされたり二次災害が被害を大きくしたりすること、的確な判断と安全な行動、日頃からの備えが重要であることへの理解、災害発生時に取るべき行動について具体的な場面を想定して考えることなどがある。

本単元は、日常の備えや的確な判断のもと主体的に行動するという中学校段階における防災教育の目標に関連しており、防災教育の中心的内容を担うという点で大変意義深い。

生徒観

本学級の生徒は、事前アンケートの結果から、自分たちの日常生活で発生する自然災害には、「地震」や「豪雨」などがあると考えており、半数の生徒は自宅からの避難場所は把握している。しかし、二次災害が被害を大きくするという認識は少なく、自宅からの避難経路の確認や避難グッズの準備は整っていない家庭が多くあった。また、災害発生時の対応について家庭で話し合ったことがあると答えた生徒も少ないという実態があった。

そこで、本単元では過去の災害例から危険を理解し、備えの必要性や情報の活用について考える活動を通して、地震や大雨の発生に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保することができるようにするとともに、日常的な備えの重要性についてとらえさせたいと考える。

本時の評価

○ 本時の評価基準

豪雨時の傷害の防止について、自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つめたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。

○ 本時の主眼

豪雨が発生した時、地形図やハザードマップなどを根拠に、安全な避難の仕方を予測し説明する。

○ 本時のまとめ（授業の最後にふりかえること）

私は、〇〇から△△を通して行きます。

この道は広くて安全だし、狭い道を通った時に土砂崩れが起きたら逃げ場がないと思うからです。

○ 本時の生徒に提示する評価のものさし

A	B	C
豪雨により発生する二次災害から生命を守るために、事例や地形図・ハザードマップなどを根拠に避難経路を考え説明できる。	豪雨により発生する二次災害から生命を守るために、地形図やハザードマップなどを根拠に避難経路を考え説明できる。	豪雨により発生する二次災害から生命を守るための工夫を、他の人の意見を真似して発表できる。

指導観

本単元の指導にあたっては、危険の予測やその回避の方法を考えさせたい。このねらいを達成するために、ハザードマップや地形図を活用し、身近に起こりうる災害について理解させたい。そして、備えの必要性や情報の活用について考える活動を通して、日常的な備えの重要性についてとらえさせたいと考える。

そのためにまず、自然災害とそれに伴う二次災害が重大な傷害につながることを理解し、発生時の的確な情報判断と安全な行動のために正しい情報を得る方法を考える。ここでは、過去の災害例を参考に一次災害と二次災害について表にまとめ、重大な傷害につながっていることを確認させる。また、各メディアの持つ長所と短所について理解し、自分だったらどのメディアを利用して情報を入手するかを考えさせる。

次に、日頃からの備えが被害を防止することについて考える。ここでは、自宅での備えについて地震を例に取り上げる。家具などの転倒による傷害を防ぐための対策や「減災グッズチェックリスト」を活用して一次の非常持ち出しを中心に考えさせる。

最後に、豪雨時の自宅から避難場所までの安全な避難経路について考える。ここでは、自宅周辺の豪雨時の危険を予測し、これまでの経験やハザードマップ、地形図などを活用して、地区ごとに集まって意見を交流しながら避難経路を決定させる。

	豊津スタンダード	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準・基準
導入 5分	思考を揺さぶる 授業展開 ①見通しを持つ (評価のものさし提 示)	1 豪雨時の映像を見て、自宅周辺で発生の可能性のある二次災害を予想する。 めあて 豪雨により発生する二次災害から生命を守るために、安全な避難方法を考えて説明しよう。	○二次災害の被害の大きさを確認させるために、令和2年7月豪雨の映像を見せる。 ○生命を守るために避難の必要性を意識させるため、自宅周辺で発生の可能性のある二次災害を予想させる。	
展開 40分	↓ ②自分の考えを持つ ↓	2 (1) 避難所までの安全な避難経路を考え、マップに記入する。 ・これまでの体験 ・既習内容からの予測 ・地区ごとの交流 (2) 考えた避難経路を思考モデルを使って記述し、説明する。 A 私は、○○から△△を通って行きます。根拠は、この道が広くて安全だからです。□□を通った方が近道ですが、道が狭くて危険です。理由は、狭い道を通った時に土砂崩れが起きたら逃げ場がないと思うからです。実際に、以前土砂崩れがあって通れないこともありました。 B 私は、○○から△△を通って行きます。この道は広くて安全だからです。	○これまでの体験や学習内容、他者の意見を参考にして、避難経路を考えさせる。 ○自宅が近い人と意見交流をさせ、自分では気づかない危険などを確認させる。 ○T2は、意見交流時に机間巡視をしながら支援を行う。 A 豪雨により発生する二次災害から生命を守るために、予測や事例を根拠に安全な避難について説明できる。 B 豪雨により発生する二次災害から生命を守るために、安全な避難について説明できる。 C 豪雨により発生する二次災害から生命を守るための工夫を他の人の意見を真似して発表できる。	イ②【ワークシートによる評価】 豪雨により発生する二次災害から生命を守るために、事例や資料、ハザードマップなどを根拠に避難経路を考え説明できる。
	↓ ③自分の考えを広げる、深める ↓	3 (1) 資料を活用して、避難経路を再考する。 ・みやこ町ハザードマップ ・内閣府防災情報ダウンロード資料 (2) 最終決定した避難方法を思考モデルを使って記述し、説明する。	○生命を守ることが第一の条件であることを確認するために、例外があることを情報提供する。 ・垂直避難 ・親戚や知人宅への避難 ・車中泊避難	
まとめ 5分	④「何ができるようになったか」を評価のものさしを基に振り返る	4 本時のまとめをする。 まとめ 生命を守るためには、時間・場所・周囲の状況などを考慮して、避難方法を選択する必要がある。 5 本時のふりかえりをする。 ・評価のものさしをもとに自己評価を行う	○本時の学習内容の何ができるようになったのか、わかるようになったのかをメタ認知させるために、ふりかえりシートを書かせる。	

